

題 材 「仲間に入れてよ・・・」(対象：高学年)

1 ねらい

仲間はずれという行為の理不尽さに気づき、いじめを許さない心情を育む

2 場面設定

友だちに話しかけても、仲間に入れてくれない

3 指導の流れ

(プリントを配付し、全部読む。)

今日は、このプリントを使ってロールプレイをやってみましょう。  
登場人物は4人です。班の中で役割を決めてください。

役割は決まりましたか？

それでは、自分の台詞や動きをそれぞれ確認してください。  
役割を交代しながら、先生が合図するまでやってみましょう。  
それでは、最初の所を読みますので、その後が続いて、各班ロールプレイを始め  
てください。(各班一斉に始める)

それでは、みなさん、前を向ってください。

「みか」の気持ちはどうでしょう？「なぜそんなこと言うの？」という気持ちもあるし、仲間はずれにされた寂しさや辛さも感じていることでしょう。最後には何も言えなくなっていますね。

「あや」「さき」は、わざと「みか」を無視したり、ひどい言葉を投げかけたりしています。

一方、「ゆい」はどうでしょう。仲間に入れてあげたいという気持ちはあると思いますが、それを言えず、2人の言いなりになっています。自分が仲間はずれにされたら嫌だという思いがあるのかもしれないね。

仲間はずれにされるということは、とても辛いことです。「みか」の心の中には、大きな傷が残るでしょう。

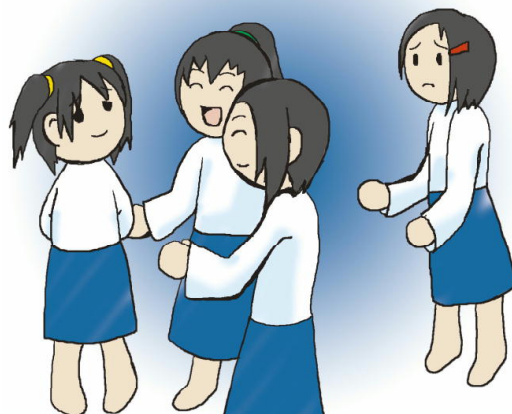
こんなことは、絶対に許されていいはずはありません。

「仲間はずれ」「からかい」「悪口」「無視」……。これらのいじめは、相手の心を深く傷付けてしまいます。いじめを許さない心が何よりも大切です。

# 仲間に入れてよ・・・

なぜ、仲間はずれにするの？  
わたしが何をしたっていうの？

登校してきた「みか」が、教室  
に入ると、「あや」「さき」「ゆい」  
の3人が楽しそうに話をしていた  
ので、いつものように、自分も話  
に入ろうとしましたが・・・



**みか** 「おはよう！」

3人 みかのあいさつを無視して話をしている。

**みか** 「何してるの？」

3人 みかの問いかけにも無視して話をしている。

**みか** 「ねー、何話してるの？」

3人 わざとみかに背を向けて、話し続ける。

**みか** 「ねー、みんなどうしたの？」

あや 「もう、うるさいな。あなたには関係ないでしょう。」

さき 「あっちに行ってよ！」

**みか** 「何でそんなこと言うのよ。仲間に入れてよ。」

あや 「関係ないって言ってるでしょう。」

ゆい 「・・・」(みかがかわいそう。助けてあげたいけど・・・)

**みか** 「・・・」

あや 「もう、あっち行こう！」

さき 「行こう、行こう。ゆいも行こうよ。」

題 材 「ぼくのせいじゃないのに・・・」(対象：中学年)

1 ねらい

自分の非を素直に認め、きちんと謝ることの大切さを理解させる

2 場面設定

友だちとふざけていたら、花びんを割ってしまった

3 指導の流れ

□ (プリントを配付し、全部読む。)

みなさんだったら、こんなときどうしますか？

□ この話には続きがあります。

担任の先生が、教室でみんなに何があったのかを聞きました。

ひろし君が「さとしがやった、さとしがやった」と何回も先生に言いました。

先生は、一端みんなを静かにさせたあと、ぼくにこう聞きました。

「さとし君、何があったのか先生に話してごらん。」

□ ぼくは、しばらく考えた後、健太君とふざけて体育袋を投げ合っていたこと、そのうち、健太君の投げた袋が花びんに当たって割れてしまったこと、だけど、花びんを壊してしまったのは、自分にも責任があることを話しました。

そして最後に、「大切なクラスの花びんを壊してごめんなさい」と健太君と一緒に謝りました。

□ 後片付けをすませて、先生はみんなにこんな話をしました。

「学級の花びんは残念ながら割れてしまいました。でも、誰も怪我をしなくてよかったね。

誰でも失敗することはあります。でも、失敗したときには、何があったのか正直に話し、謝ることが大事ですね。」

□ さらに話は続きます。

この後、先生はひろし君とのことについて話を聞いてくれました。そして、ひろし君と話し合いをし、意地悪もすっかりなくなりました。

今、教室の後ろには、先生が買ってくれた新しい花びんに花が生けてあります。

その花びんには、「みんなの大切な花びん」というシールが貼ってあるそうです。

# ぼくのせいじゃないのに・・・

ぼくがわったんじゃないのに・・・  
ぼくだけのせいにするなんてひどい

たいいくのきがえのとき、けんたくんとふざけてたいいくぶくろを投げ合っていたら、けんたくんが投げたふくろが花びんに当たって、われてしまいました。

われた音を聞いて、教室に入ってきたみんなは「あー！」と言ってぼくの方を見えています。

いつもぼくに意地悪をしているひろし君が、特に大きな声で「きとしがやった」と言いふらしています。

どうしたらいいのかな？



① 自分がわったのではないので、そのことをみんなに言う。

② みんながぼくがわったと言うので、仕方なくあやまる。

③ 自分もいっしょにふざけていたので、すなおにあやまる。

題 材 「すぐにあやまりたかったけど・・・」(対象：低学年)

1 ねらい

自分の非を素直に認め、きちんと謝ることの大切さを理解させる

2 場面設定

走って教室に入ろうとしたら、人とぶつかった

3 指導の流れ

□ (プリントを配付し、全部読む。)

大きわざになってしまって、すぐに謝れなかったぼくの気持ちも分かるよね。

また、ひろ子さんは、「なぜ謝ってくれないの？」という気持ちでいるのでしょ  
うね。

□ こんなとき、どうしたらいいのかな？

わざとじゃなくても、ぶつかったらきちんと謝ることが大事だよね。

ぼくは、すぐに謝ることはできませんでしたが、今からでも遅くないから、ひろ  
子さんにきちんと謝ったらいいよね。

□ 学校は、たくさんの人たちが一緒に生活しています。だから、ぶつかったりする  
こともあります。

でも、自分が悪かったと思ったら、きちんとそれを謝りましょう。

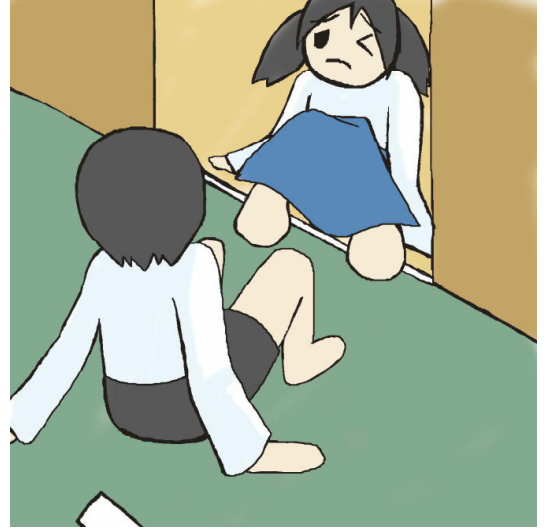
反対に、謝ってくれたときは、許してあげることも大切です。

そうすれば、けんかも随分少なくなるでしょうね。

## すぐにあやまりたかったけど・・・

すぐにあやまればよかったなあ・・・  
でも、<sup>いま</sup>今さら言いに<sup>い</sup>にくいなあ

ある日、<sup>ひ</sup>走<sup>はし</sup>って<sup>きょうしつ</sup>教室<sup>はい</sup>に入ろうと  
したら、<sup>いりぐち</sup>入口<sup>こ</sup>でひろ子<sup>こ</sup>さんとぶつ  
かってしまいました。



そして、<sup>こ</sup>ぼくもひろ子<sup>こ</sup>さんもたおれて、<sup>しりもち</sup>しりもちをついてし  
まいました。

みんなは「だいじょうぶ？」と<sup>い</sup>言いなが  
ら、<sup>な</sup>泣<sup>な</sup>いているひろ子<sup>こ</sup>さんのまわりにあつ  
まって、<sup>お</sup>おおさわぎ<sup>な</sup>になっ<sup>て</sup>てしまいました。

だから、<sup>ぼく</sup>ぼくは、<sup>すぐ</sup>すぐにあやまる<sup>こと</sup>ことが  
できませんでした。

どうしたらいいのかな？

題 材 「本当は断りたいのに・・・」(対象：高学年)

1 ねらい

相手を尊重しながら、自分の気持ちを上手に伝えることの大切さを理解させる

2 場面設定

授業が始まる前に、友だちから宿題を見せてと頼まれた

3 指導の流れ

□ (プリントを配付し、前段までを読む。)

「宿題見せて」と頼まれたとき、みなさんだったらどう答えますか？

それでは、3つの例で考えてみましょう。

□ (①を読む。)

どうでしたか？

中島さんが言うままに、しぶしぶ宿題を見せている感じですね。

□ (②を読む。)

これはどうかな？

「見せたくない」という気持ちをはっきりと中島さんに伝えてありますね。でも、何だか言い方が冷たいですね。

□ (③を読む。)

これはどうでしょう？

「見せてあげることはあなたのためにならない」という、中島さんを大切に思う気持ちがあるようですね。

□ この3つの会話から、とても大切なことが読み取れます。

①は、自分の気持ちを表現していません。

②は、断りたいという言い方が、攻撃的に聞こえます。

③は、自分も相手も大切にしたい言い方です。

□ みなさんがいろいろな人と話をするとき、自分の言い方を振り返ってほしいと思います。

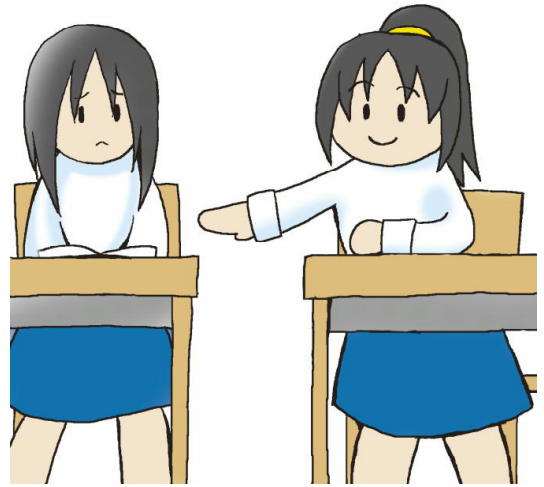
先生は、みなさんに、相手の気持ちも大切にしながら、自分の気持ちをうまく伝えることができるようになってほしいと願っています。

ほんとう ことわ  
本当は断りたいのに・・・

ことわ  
どう断ればいいのか？  
ことわ  
うまく断るにはどうすればいいのか？

こくご じゆぎょう まえ とも なかしま  
国語の授業の前、友だちの中島さ  
んから、「ねー、宿題、見せて」とた  
のまれました。わたしは断りたいけ  
ど、断ったら中島さんに悪い気もす  
る。

どうすればいいのか？



- ① なかしま 中島 「国語の宿題、見せて。」  
わたし 「えー。うーん。そうだなー・・・」  
なかしま 中島 「早く見せてよ。」  
わたし 「わかったわよ・・・」

- ② なかしま 中島 「国語の宿題、見せて。」  
わたし 「何で見せなきゃいけないの。自分でや  
ればいいじゃない。」  
なかしま 中島 「・・・」

- ③ なかしま 中島 「国語の宿題、見せて。」  
わたし 「ごめんなさい。まだ時間があるよ。手伝  
うからいっしょにやらない？」  
なかしま 中島 「ありがとう。」



題 材 「これくらい、いいかな？」(対象：中学年)

1 ねらい

「いけないことはいけない」と正しい判断ができるようにさせる

2 場面設定

学校にゲーム機を持ってきて見せびらかしている

3 指導の流れ

□ (プリントを配付し、全部読む。)

みなさん、どう思いますか？

もちろん学校にゲーム機を持ってきて、よいはずはありませんよね。

先生は、会話の中で、気になる言葉があります。

「見つからなかったらだいじょうぶだよ。」

見つからなかったら、何をしてもいいのかな？

それから、「今度、ちがうのももってくるよ。」

ゲーム機を持ってくるのが、当たり前になってしまいそうですね。

□ こんな話があります。

アメリカのある町で、夜中に若者がふざけて一枚のガラスを割りました。その家は空き家で、割れた窓はそのままにされていました。

その後、この町では窓が割れていることが当たり前になって、町中の窓が次から次へと割られてしまいました。他の犯罪も増えていきました。

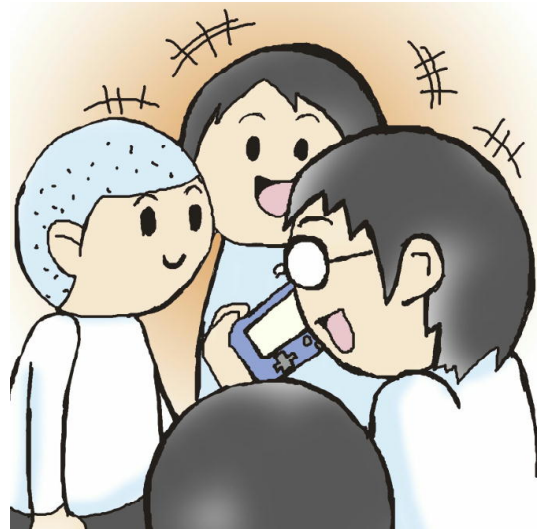
こんなことくらい大丈夫だと放っておくと、どんどんひどくなっていくということです。

□ 資料の話では、「ゲーム機くらいいいかな」と思って続けていると、それが当たり前になり、他の決まりも「これくらいいいか」となってしまいそうです。

「いけないことはいけない」とみんなで判断できるクラスになってほしいですね。

## これくらい、いいかな？

これくらい、いいかな？  
みんなも楽しんでるし・・・



ある日、クラスの友だちが、一番新しいゲーム機をもってきて、みんなに見せびらかしています。

クラスの中では、ほかにまだだれももっていないので、みんなうらやましそうです。

「あっ、一番新しいゲーム機だ！」

「いいなー。」

「ぼくにも見せてよ。」

「でも、学校にもってきたらいけないんじゃないか？」

「見つからなかったらだいじょうぶだよ。」

「今度、ちがうのももってくるよ。」

このままでいいのかな？

題 材 「言わなくてもいいのに・・・」(対象：中学年)

1 ねらい

先入観で人を判断したり、人の不利益になる情報を安易に流したりしないようにさせる

2 場面設定

悪口を言ったことがその人に伝わっていた

3 指導の流れ

□ (プリントを配付し、全部読む。)

みなさん、話の流れはわかりましたか？

ぼくともや君が、こうじ君のことを話しています。

ぼくはこうじ君のことをあまり知らないのに、ともや君から「こうじはいじめっ子なんだって」という話を聞いて、「やっぱりそうなんだ」と答えています。

その上、「何だか、意地悪そうだもんね」とも言っています。

□ その人のことをよく知らないのに、見た感じや人から聞いたことだけで、その人のことを決めつけてしまっています。

「先入観」(板書)という言葉があります。難しい言葉ですが、「最初に知ったことによって、偏った見方や考え方をしてしまう」ということです。

これは、とても危険なことです。

□ もう一つ大切なことがあります。

なぜ、こうじ君は、「ぼく」が悪口を言ったことを知っていたのでしょうか？

ともや君がこうじ君に伝えたからです。

こんなことが、けんかやいじめの元になることがよくあります。

□ 今日の話の中で大切なことが3つあります。

○ 見た目や人から聞いたことだけでその人を判断しないこと。

○ 人の悪口を言わないこと。

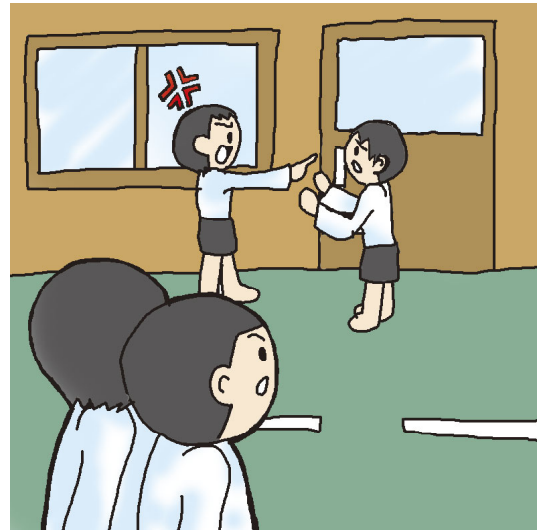
○ 人が困るようなことを言いふらさないこと。

# 言わなくてもいいのに・・・

わざわざ言うことないのに  
き  
気まずくなったな・・・

やす じかん にも や くん と ろう 下 を ある  
歩  
き ながら、話 を して いる と、と な り  
の クラス の こう じ くん が、ほ か の 男子  
と 言 い あ ら そ い を して いた っ た。

それ を 見 た と も や くん が ぼ く に 言 い  
ま した。



ともや 「こうじのこと知ってる？」

ぼ く 「ちょっとね。」

ともや 「こうじはいじめっ子なんだって。」

ぼ く 「やっぱりそうなんだ。なんだか、  
い じ わ る  
意地悪そうだもんね。」

ぼくは、なにげなくそう言いました。

ところが、その日の放課後、こうじ君がぼくの所に来て言うの  
です。

こうじ 「ともや君から聞いたけど、ぼく  
の悪口言ったんだって!？」